

令和3年4月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和3年4月分について、輸出額は「自動車の部分品」、「自動車」などが増加したことから、対前年同月比44.4%の増加となった。また、輸入額は「有機化合物」などが減少したものの、「原粗油」、「石油製品」などが増加したことから、同5.8%の増加となった。
その結果、差引額は6,790億円（同89.8%の増加）となった。

注）本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

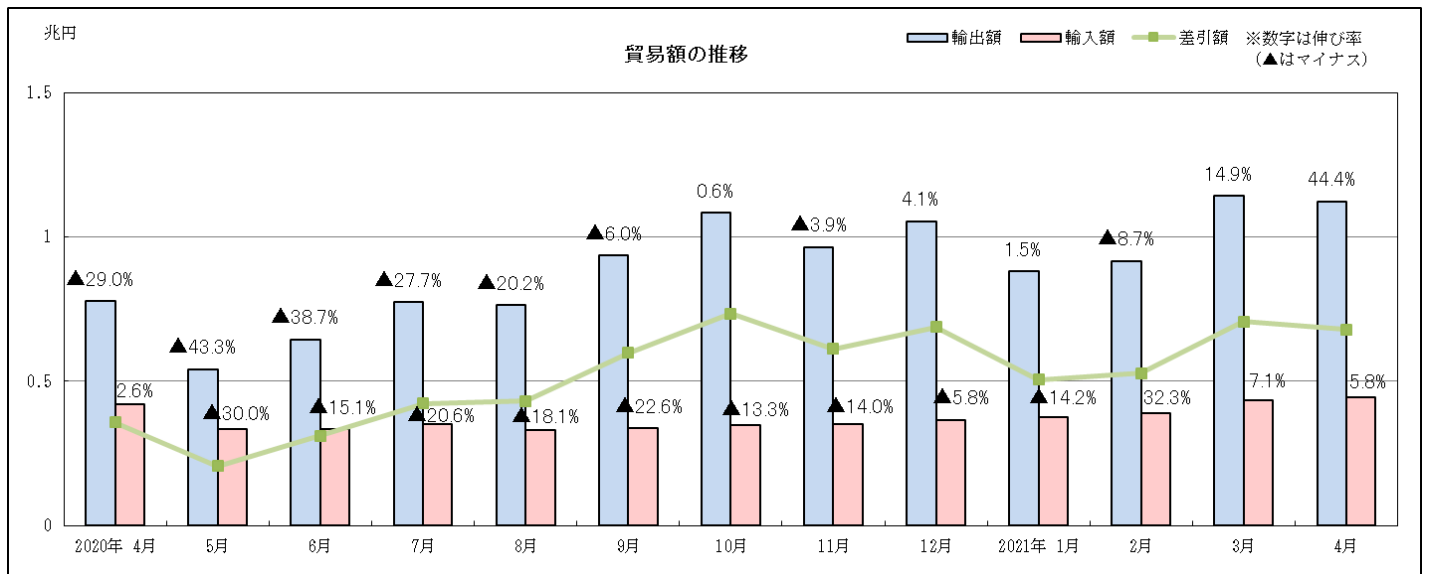
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	1兆1,240億円	+44.4%	4,450億円	+5.8%	6,790億円	+89.8%
	2ヵ月連続の増加		3ヵ月連続の増加		2ヵ月連続の増加	
管内（名港シェア）	1兆7,094億円（65.8%）		8,225億円（54.1%）		8,869億円（—）	
全国（名港シェア）	7兆1,811億円（15.7%）		6兆9,258億円（6.4%）		2,553億円（—）	

注）名古屋港における輸出額は、令和2年9月以降8ヵ月連続 全国港別（空港を含む）第1位
注）名古屋港における差引額は、平成23年6月以降119ヵ月（9年11ヵ月）連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出増加	(1) 自動車の部分品	1,922億円	+76.4%	+10.7	2ヵ月連続の増加
	(2) 自動車	2,826億円	+39.7%	+10.3	2ヵ月連続の増加
輸入増減	(1) 原粗油	304億円	+55.4%	+2.6	2ヵ月連続の増加
	(2) 石油製品	152億円	+187.3%	+2.4	3ヵ月連続の増加
	(1) 有機化合物	82億円	▲72.4%	▲5.1	5ヵ月連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。
名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。